

## イスラ ムにおける女性（前半）

:

明:イスラ ムにおける女性の位置づけと男女平等

目:[事代における女性](#)

より: モスタファ マレ カ

日 04 Mar 2013

集日 04 Mar 2013

### 序



男女平等という事柄は、代とても重要な です。この にしての や 文の数は えており、多くの 解があります。イスラ ムにおける男女平等は、非イスラ ム教徒、そしてイスラ ム教徒の一部からさえ最も 解されている でしょう。この 事では、イスラ ムにおける男女

平等の地を に、そして正しく 明します。

## 古代文明における女性

イスラ ムが与えた女性の地位を本当の意味で理解するためには、在と 去に存在したシステムと比べてみる必要があります。

(1) インドのシステム: 1911年に出版されたブリタニカ百科辞典にはこう かれてい  
ます。「インドでは服 が最も重要な理念です。マヌ 典は、『女性是一日中、保 者のも  
とに拘束されていなければなりません。』とっています。 は男性中心に められ、女  
性は省かれていました。ヒンズ 教の 物には、理想の妻についてこう かれてい  
ます。『心も言 も体も服 の状 にあり、社会的な名声があり、 で夫と共に住む女性である。』」  
(メ ス「西の 婚」)

(2) ギリシャのシステム: アテネでの女性の地位はインド人女性やロ マ人女性と わ  
らないものでした。「アテネの女性は常に半人前とされ、父 、兄弟、または 戚の男性  
の中で かに 属している状 でした。」(アラン E A  
「文明の 史」) 婚においても女性の意思は ないとされ、「 の意思に服 しなければなら  
ず、たとえ相手を全く知らない状 でも、彼らが れてきた夫を主人としなければならま  
せんでした。」(文明の 史)

(3) ロ マのシステム: ロ マ人の妻は 史家たちによってこう 明されています。「未熟  
で、半人前で、被 人で、自分の意志では何もすることができず、常に旦那の と保 の下  
にいる者。」(文明の 史) 1911年に出版されたブリタニカ百科辞典では、ロ マ文明で  
の女性の法的位置づけがまとめられています。「ロ マ法では、 史的に女性は完全に依  
存した存在でした。 婚したときは彼女自身と彼女の は夫のものであり、妻は夫が 入し  
た所有物であり、夫の利益の に得られた奴 でした。女性には市民 や公的な 所での 限は  
なく、保 人、 人、保佐人になることはできませんでした。女性は 子 をすることもでき  
ず、契 を んだり、 を すこともできませんでした。」

(4) スカンジナビア地域のシステム: スカンジナビアの女性は、未婚 既婚に わらず、常に保 下にある存在でした。17世 末のデンマ クのキリスト法では女性が 人の 可 しに 婚した 合には、 人は女性の所有物の用益 と 督 を得られるとしていました。(ブリタニカ百科辞典、1911年)

(5) 英国のシステム: 英国では女性の所有 は19世 末まで められていませんでした。「1870年に施行され、1882年と1887年に修正された、既婚女性の所有 条 から始まった 一 の により、女性は の所有 を められ、独身女性、寡 、 婚女性が同等に契 を ぶことがゆる されました。」(ブリタニカ百科辞典、1968年) 一方フランスでは、1938年のフランス法まで女性が契 を ぶ 利はありませんでした。しかし当 ですら、既婚女性は、彼女の所有物を分配する には夫の 可を得なければなりませんでした。

(6) ユダヤの法: 妻は 嫁として娶られていました。この概念を解 するために1902年に出版されたビブリカ百科辞典を引用します。「妻をとるということはお金で彼女の所有物を うということでした。お金を支 われた少女が妻になるということだったので。」法的に言えば、 婚が成立するために少女の同意は求められていませんでした。

「少女の同意は必要なく、法にも必要と かれていない。」(ビブリカ百科辞典、1902年) 婚の 利についてビブリカ百科辞典には「女性は男性の所有物であるので、男性に 婚する 利があります。」と かれています。 婚の 利は男性だけにしかなかったのです。1911年のブリタニカ百科には「ユダヤの法では 婚は夫だけに与えられた 利である。」と かれています。

(7) キリスト教教会: キリスト教教会の女性 は最近まで、ユダヤの法と当 の流れに 影 されたものでした。デイビッドとベラ メ スが いた「西の 婚」にはこう かれてあります。「キリスト教が女性への侮辱的 解を持っていたという事 はない、と考えるのはやめましょう。初期キリスト教会の牧 たちが与えた女性 より差 的なものを探すのは、し しいのです。」有名な 史家レッキ によると、「このように甚だしく 味の い牧 たちが いた文 の とは……女性は地 の扉とされ、全ての人 の の始めとされました。」





